

葉月

〔はづき〕令和4年8月

「月見草」「観月」「桂月」とも言われ、古くから月に生えていると信じられていた桂の葉の月という意味があります。

発行：北海道神社庁一区教化委員会

是のただよへる国を

修理り固め成せ

古事記

今月のことば

是のただよへる国を修理り固め成せ

古事記

国土の修理固成は永遠の課題である。修理固成とは何か。それは、小にしては人心の開發であり、台にしては社会・国家・世界の立派な建設である。

古事記には「ここに天神諸々の命もちて、伊邪那岐の命、伊邪那美の命の二柱の神に、詔りたまいて、

『此の漂える国を修理り固め成せ』と、天の沼矛を賜いて言依さしたまいき』とある。この言葉は、我が祖神が、私共に示された最初のお言葉である。新党を奉ずる者としては、この言葉通りに生き、このお言葉を立派に実現することが、最高の使命でなければならぬ。

古事記は元明天皇の和銅五年（七一二）正月に田安麿の撰進したわが国最古の神典である。

（神道百言 一般財団法人神道文化会編より抜粋）

季節のまつり

八朔

田の実りの節供

八朔とは八月朔日の略で、旧暦の八月一日です。この頃、早稲の穂が実るので、農家の間で初穂を恩人などに贈る風習が古くからありました。このことから、「田の実りの節供」とも言われ、この「たのみ」を「頼み」にかけて、武家や公家の間でも、日頃お世話になっている（頼み合っている）人に、その恩を感謝する意味で贈り物をするようになりました。

盆踊

盆に戻った祖霊への供養

お盆の時期になると全国の至る所で盆踊りが行われます。もともとは、年に一度、文字通りお盆のときに、この世に戻ってきた祖霊を供養するために踊ることを意味します。

櫓を中心にして、その周りを踊る

「盆踊り」は、古代日本で神様が降りてきたところを中心に、輪を作って踊ったなごりと言われていますが、鎌倉時代、時宗の開祖・一遍上人が広めた念仏踊りのように列を組んで歩きながら踊る「行列踊り」などもあります。その代表的なものが「阿波踊り」です。



盆踊り歌とは？

ふるさとの盆踊り歌には、その土地に長い間歌い継がれたものが多くあります。その歌は、本来は盆を迎えた祖霊を慰め、またこれを送るためであったと考えられますが、今はその趣旨は精霊踊りや念仏踊りの歌にしか残っていません。多くは庶民の娯楽化した歌詞や、口説きの類で、踊る者と歌う者との交歓のためのものになっています。

歌舞は、元々鎮魂のための作法でした。盆踊りの輪踊りの形は櫓を中心してしますので、神楽や巫女舞の輪踊する所作と同じようなものといってよいと思います。盆踊りの人たちが恍惚となっていく態が示されています。

今の盆踊りは拡声器やテープの音量を上げて歌いますが、昔は野良や山で鍛えた野太い、よく透る声で歌われたと思います。その肉声こそが、ふるさとの『祭り広場』たる盆踊りの踊り手らの胸に沁み透ったに違いありません。

じんぎどうとく 仁義道德

正しい道。生き方をすまう。守るべき道にかなう。人として守るべき道にかなう。またその道にかなう。またその道にかなう。

すいふよう 酔芙蓉



参考文献 『くらしと祭り百話』小野迪夫（神社新報社）

令和 4 年
2022 年

8 月

日	月	火	水	木	金	土
	1 仏滅 八朔 いぬ	2 大安 る	3 赤口 ね	4 先勝 うし	5 友引 とら	6 先負 う
7 仏滅 立秋 たつ	8 大安 み	9 赤口 うま	10 先勝 ひつじ	11 友引 山の日 さる	12 先負 とり	13 仏滅 いぬ
14 友引 三りんぼう る	15 先負 一粒万倍日 ね	16 仏滅 うし	17 大安 とら	18 赤口 う	19 先勝 たつ	20 友引 み
21 赤口 うま	22 先勝 ひつじ	23 友引 処暑 さる	24 先負 とり	25 仏滅 いぬ	26 大安 三りんぼう る	27 友引 一粒万倍日 ね
28 先負 うし	29 仏滅 とら	30 大安 う	31 赤口 たつ			

二十四節気

【立秋 りっしゅう】… 七日

旧暦七月申の月の正節で、この日から暦の上では秋に入りますが、実際には残暑が厳しく、まだまだ暑い最中です。しかし朝夕は何とはなしに秋の気配が感じられます。

【処暑 しよしよ】… 二十三日

旧暦七月申の月の中気で、涼風が吹きわたる初秋のころで、暑さもおさまり、収穫の候も目前となります。

六曜・選日

《六曜》

【先勝】… 諸事急ぐことによし、午後よりわるし

【友引】… 朝夕よし、正午わるし、葬式を忌む

【先負】… 諸事静かなることによし、午後大吉

【仏滅】… 万事凶、患えば長びくおそれあり

【大安】… 何事をするのにも吉の日、大吉日

【赤口】… 諸事油断すべからず、正午のみ吉

《選日の吉凶》

【三りんぼう】… 三隣亡日、普請始め、棟上大凶日

【一粒万倍日】… 出資・投資・購入、新規事業開始

婚姻は吉、借りる、離別は凶

七十二候《8月》

処暑

初候・綿柎開（わたのはなしべひらく）
綿の実を包む花の萼（がく）が開き始める
次候・天地始肅（てんちはじめてさむし）
よつやく暑さが弱まりはじめる
末候・禾乃登（こくものすなわちみのる）
日に日に稲穂の先が重くなる

立秋

初候・涼風至（すずかぜいたる）
秋の涼しい風に変わりはじめる
次候・寒蟬鳴（ひぐらしな）
夏の終わりを惜しむひぐらしの鳴く
末候・蒙霧升降（ふかききりまことつ）
深い霧がたちこめる

※七十二候とは二十四節気の各節気をさらに三つづつに細分し、一年を七十二に分けたものをいいます。季節の移ろいを気象や動植物の成長・行動などに託して表現したものです。

安産祈願 8月の戌の日

1日（月）
13日（土）
25日（木）

*戌の日以外でも安産祈願のご奉仕しております。神社にお問い合わせください。

《11日 山の日》

山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する日です。



祝祭日には国旗を掲げましょう

「暑中見舞い」

贈答の習慣が簡略化

暑中見舞いはもともとお盆の贈答の習慣が簡略化されたものです。かつては、お盆に里帰りする際、祖先の霊に捧げるための物品を持参する習慣がありました。それが、しだいにお世話になった人全般への贈答の習慣になっていきました。

その際、本来は直接訪問して届けるのが一般的でしたが、やがて簡略化され、手紙ですませるようになったのが、現在の暑中見舞いです。

暑中見舞いは、二十四節気の小暑（七月七日）から立秋（八月七日）にかけて送るのが通例で、立秋を過ぎたら「残暑見舞い」とします。

ちなみに、お盆の贈答の習慣は、お中元へと受け継がれています。